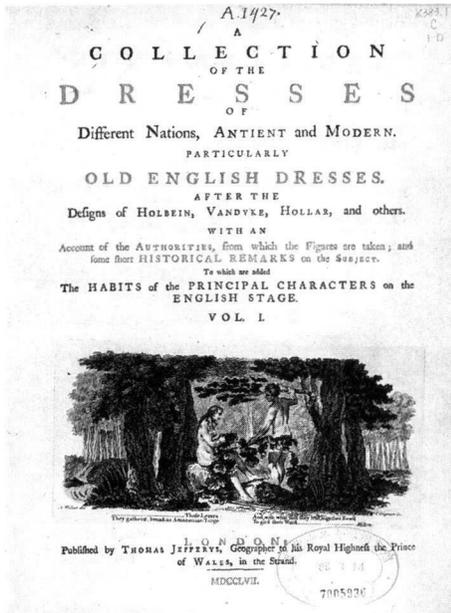


*A collection of the dresses of different nations, antient and modern particularly old English dresses, after the designs of Holbein, Vandyke, Hollar, and others.*

London, Thomas Jefferys, 1757-1773. 4 vols. 480 plates (copper hand-col.). 28×21cm. <K383. 1-C> 文献番号 4-2

Hiler p. 177-178 Colas 663, 2507 Lipper. 37

『各国今昔の衣装図集；特にホルバイン、ヴァン・ダイク、ホラー他の作品による英国の歴史服』



第1巻と第2巻は1757年、第3巻と第4巻はそれぞれ1772年と1773年に出版されている。18世紀のこの種の出版物としては珍しく、どの衣装図も出典と年代が明らかにされており、服装や風習などの解説も付いている。それぞれ古い時代の旅行記や大使の記録、また古い版画集や著名な画家の作品などから掘り起こされており、当時としては出来るだけの正確さを求めたものと思われる。

まず1757年発行の第1巻では、トルコ、中国、レヴァント、アラビア、インド、エジプト、イタリアなど119枚、第2巻では、スペイン、フランス、ドイツ、イギリス、それに英国の舞台衣装が加わって121枚、計240枚が収録されている。主な出典は、トルコや中

近東辺は、『ヴェインの隊商』1748、『フェリオル氏の版画百葉』18世紀初期、『ニコライ・ドフィノワの旅行記』1568、『風俗絵図』John Weigel 1577などであり、スペイン、フランス、ドイツ、イギリスは『オランダその他の大年代記：1600年まで』Jean François Le Petit、『女性劇場』W. Hollar 1644、そしてホルバインやミュラーをはじめとする画家による肖像画となっている。

第3、第4巻では、あらたにロシア、フランス、アメリカなどの衣装が充実し、出典資料も新しくなって数も増え、旧巻と同じ国々も新たな資料が加わって重複することはない。15年ばかりの間に僻地の旅行記や衣装集の出版物が増えたことを窺わせている。代表的なものは、『シベリア紀行』L'Abée Chappe D'Auterroche 1768、『各国の服装』J. B. Le Prince 1768、『著名国風景』J. Seed 1627、そしてフランスではリシュリューの館のギャラリー収蔵の肖像画の模写、巻末の寓意的なイコノグラフィー25枚はC. Ripaの作品(1608)から借用している。両巻合わせて同じく240枚になる。

ジェフリズ刊の図集は、18世紀のイギリス市民にとっては単なる服装風俗集の類いではなく、仮装衣装のための案内書として好評を博した実用のシリーズであった。18世紀初期にイタリアから入ってきた仮装舞踏会は、瞬く間にイギリスで大流行し、貴族だけではなく一般市民もが、ラニラやヴォクスホールなどの公園で催された野外仮装舞踏会に熱狂したといわれる。当時最も人気のあった仮装衣装は、ヴァン・ダイクの作品からとった17世紀前期の衣装をはじめとする歴史服や、ジェフリズの図集からヒントを得たトルコの衣装だった。こうした仮装衣装は女性の流行衣装にも影響を与えており、18世紀イギリス社交界のファンシー・ドレス (fancy dress) を知るうえで、貴重な資料である。(辻)



ナクソス島の若い女性の衣装 1700年 (vol. 1 pl. 55)